



平成 30 年 12 月 17 日
海 上 保 安 庁

南海トラフ研究の最前線 ～平成30年度海洋情報部研究成果発表会を開催します～

海上保安庁は、1月17日、当庁が実施した最新の調査・研究成果などを紹介する「平成30年度海洋情報部研究成果発表会」を開催します。今年度は、当庁内外の研究で目覚ましい進展が見られる南海トラフの研究に焦点を当て、「南海トラフ研究の最前線」と題したメインテーマを掲げました。これを受け、東京海洋大学海洋資源環境学部 木村 学 特任教授(東京大学名誉教授)から「南海トラフ掘削が切り拓いた沈み込み帯の新しい描像」と題する基調講演をいただくこととしています。

海上保安庁海洋情報部では、我が国の産業や国民生活を支える海上交通の安全確保、海洋に起因する災害への対応、海洋環境の保全、海洋権益の確保、さらには海洋情報の円滑な流通を図るため最先端の調査・研究を行っており、その成果を分かりやすく紹介するため、毎年「研究成果発表会」を開催しています。

記

- 1 開催日時
平成31年1月17日(木) 13:10～18:15 (12:40開場)
- 2 開催場所
海上保安庁海洋情報部 中央合同庁舎第4号館2階 共用220会議室
(東京都千代田区霞が関3丁目1番1号)
- 3 プログラム
別紙「平成30年度海洋情報部研究成果発表会プログラム」をご参照願います。
- 4 その他
 - ・入場は無料、事前申し込みは不要です。当日、直接お越しください。
※専用駐車場はございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。
 - ・会場の座席数は、約170席です。来場者数によっては立席での聴講となる場合がありますので、予めご了承願います。
 - ・取材の希望を受け付けますので、希望される場合は、12月25日(火)午後1時までに、上記お問い合わせ先へご連絡願います。

会場へのアクセス



平成30年度海洋情報部研究成果発表会プログラム

日時：平成31年1月17日（木） 13:10-18:15（12:40開場）
会場：中央合同庁舎第4号館2階 共用220会議室
主催：海上保安庁海洋情報部 共催：一般財団法人日本水路協会

<開会挨拶>

13:10-13:15 海洋情報部長 加藤 幸弘

<口頭発表>

セッション1：南海トラフ研究の最前線

- ①13:15-14:05 【基調講演】
南海トラフ掘削が切り拓いた沈み込み帯の新しい描像
東京海洋大学海洋資源環境学部 木村 学 特任教授
(東京大学名誉教授)
- 14:05-14:10 休憩
- ②14:10-15:00 【招待講演】
海陸地殻変動データを用いた南海トラフ沿いのプレート間カップリング分布
京都大学防災研究所 西村 卓也 准教授
- 15:00-15:05 休憩
- ③15:05-15:25 南海トラフ海底下で発生するゆっくりすべりの検知を目指して
～海底地殻変動観測と黒潮海洋場～
海洋調査課 海洋防災調査室 横田 裕輔
- ④15:25-15:45 海底地殻変動観測から見えてきた南海トラフ海底下のゆっくりすべり
技術・国際課 石川 直史
- ⑤15:45-16:05 南海トラフ地震の津波シミュレーション結果から見た瀬戸内海
の海釜形成の要因
海洋調査課 海洋防災調査室 鈴木 充広
- 16:05-16:15 休憩

セッション2：一般テーマ

- ⑥16:15-16:35 海洋の今を見るために
～海洋状況把握(MDA)における情報の集約・共有～
海洋情報課 海洋空間情報室 桂 幸納
- ⑦16:35-16:55 AUV「ごんどう」を用いた海洋調査の現在
海洋調査課 大陸棚調査室 長澤 亮佑
- ⑧16:55-17:15 次世代の無人海底探査へ向けた挑戦
～深海域マッピングの国際大会“Shell Ocean Discovery XPRIZE”～
技術・国際課 海洋研究室 住吉 昌直

⑨17:15-17:30 一般テーマのポスター紹介

<閉会挨拶>

17:30-17:35 技術・国際課長 藤田 雅之

<ポスター発表(コアタイム: 17:35-18:15)>

- P1 新たな地震学的現象を捉えるための海底地殻変動観測技術の高度化
海洋調査課 海洋防災調査室 小池 未空時 ほか
- P2 南海トラフにおける海底地殻変動観測の今後の展開について
海洋調査課 海洋防災調査室 河合 晃司 ほか
- P3 豊後水道におけるマルチビーム測深機で得られた海底地形
海洋調査課 森 弘和
- P4 マルチビーム測深における測位・動揺データの高精度化の効果
技術・国際課 海洋研究室 住吉 昌直 ほか
- P5 航空レーザー測量で捉えた南西諸島のすり鉢状の海底地形
海洋調査課 山川 峻 ほか
- P6 Chart Adequacyの評価への衛星画像推定水深 (SDB) の適用の検討
技術・国際課 海洋研究室 熱海 吉次 ほか
- P7 諸外国で構築されている鉛直基準面モデル
技術・国際課 海洋研究室 松本 良浩 ほか
- P8 AOVによる潮位解析の方向性
環境調査課 土屋 主税 ほか
- P9 海洋短波レーダーの流向・流速値による相模湾の流れの分析
技術・国際課 海洋研究室 宗田 幸次
- P10 新造27メートル型測量船「はましお」
海洋調査課 大泊 理八 ほか
- P11 海洋データの利用促進と日本海洋データセンター
海洋情報課 馬場 典夫 ほか
- P12 South and Pacific Centre (SaWPac) におけるSeabed2030への取り組み
技術・国際課 海洋研究室 小川 遥 ほか

